1999年 9月 15日発行（隔月奇数月発刊）

盲人情報文化センター　点字製作係
550-0002 大阪市西区江戸堀 1-13-2
TEL 06-6441-0015　FAX 06-6441-0039

こんにちわ！　“英語点訳グループ Ｙ・Ｙ” です。

“We Are Open.”　（井上　ゆり子）

分かち書きに苦しむこともない（！？）．．．英語点訳やってみようかな♥

メイル・ボックスのガラス戸に貼られていた「英語点訳勉強会のお知らせ」はアヤシク私を誘いました。

「一般書を抱えながらの講習ですからボチボチト．．．」という温情ある森さんの指導で ’97年10月勉強会はスタート、参加者は６人。勉強といってもレイアウトくらいだよネ．．．という能天気な思い込みは、暗一転．．．略語だ縮語だと、６点の織りなす無限の拡がりはやっぱしアヤシク苦しい世界でした。「えーっ！　まだ覚えること、あるんですかーっ？」　「次に．．．」と言ってページをめくられる森さんの指先を見つめて、思わずため息も。かくて、どうにかこうにか基礎編終了。

昨年春からは、講師に府教委の高橋さんをお迎えして、月１回のペースで勉強会は今も続行中です。この夏、「実際に打ってみましょう」と練習テキストにした『日本のおとぎ話』が共同点訳本として完成、英語点訳グループＹ・Ｙの旗揚げとなったしだいです。

「ヘエー、そんな賢いワザあるんや！」　編集作業を一緒にやって、パソコンのキー操作に新たな活路を見いだしたりワイワイガヤガヤ。孤独な家内労働と違った盛り上がりもあります。バリア・フリーで、末長くと願います。

こんな英語のニーズがあるんだけれどとか、長文なので２級で打ちたい英文があるなど、気軽に声をかけてもらえれば、嬉しいです。

現在は、英会話のハウツウ本に挑戦中、小さな歩みを始めました。どうぞよろしくお願いします。

“宝探し？”　（四宮　陽子）

英語の点訳をするとき、なんだか得をしたような気がしています。

10マス以上の単語が略字や略語、縮語を使うことによって半分以下のマス数になったりするのです。また、日本語点訳で頭を悩ませるマスあけに関しても助かっています。

現在、講習を受けた仲間で１冊の本を分冊し、お互いに校正をしているのですが、自分が見落とした略字を指摘されたり、逆に、こちらが見つけたりと、ちょっぴり宝探しをしている気分です。でも、せっかく見つけた宝（略字等）も、音節等の関係で使えない所があったり．．．とても奥が深いです。

メンバーに助けられ、協力しあいながら、やっています。

“英語に強くなくても点訳出来るよ！
なんて言われて．．．
頭の体操に四苦八苦の今日この頃。”　　　　　（山村　勇）

“これから！．．．”　　　　（野口　由起子）

忘れかけた英語力が復活すればと、軽い気持ちで勉強会に参加したのです。でも、英語点訳の略字や略語・縮語と習ううち、頭の許容量を超えてしまい、英文や単語は、アルファベットの羅列としてしかとらえられなくなってしまいました。そのせいで、いつも失敗の連続です。

でも、一番若輩の私も言いたいことを言わせてもらえて、意見交換の活発なグループなので、きっとこれから良い本が、たくさん作れると自負しております。（！？）

英文の含まれた本は、レイアウトも難しく、４人で頭をつきあわせて悩むこともしばしばですが、一人では荷の重い本でも、チャレンジできるのも楽しみの一つと思ってがんばってます。

今回は、英語点訳グループＹ・Ｙの皆さまに活動とメンバーの紹介をいただきました。
利用者からの希望は多岐にわたっており、専門的な技術を持った集団が必要とされています。
今後の活動が期待されます。

報告 アンケート

“アンケート調査をいたしました”

過日、ご意見箱に「レイアウトに苦労しています。利用者の方にとってどのようなレイアウトが読みやすいのでしょうか」といった趣旨のお手紙が入っていました。それに対するお答えになるかどうかは分かりませんが、この夏、利用者の方にアンケートをお願いすることにしました。ただし、“レイアウト”が何を指しているのか文面だけでは判りませんでしたので、アンケート内容は質問者の意図から離れたものになっているかもしれません。

アンケートのお願い

盲人情報文化センター　　点字製作係

盛夏の候、暑中お見舞い申し上げます。

さて、私たちは点訳に際し、正確に、読みやすく、そして皆様に信頼していただける点訳書をと心掛けておりますが、果たして利用者の方に満足していただいているのだろうか？ 皆様方のお声をお聞

かせ願えたらと思い、このアンケートをお願いすることにいたしました。
　１．～４．の例題に2､3種の点訳例を挙げました｡それらの中から読みやすいと思うものを選んでいただき､アドバイスやコメント､ご希望も併せて頂ければ幸いです。
　まず、以下の質問にお答えください。
　性別（男性・女性）
　職業（学生・社会人・その他）
　よく読まれるジャンル（小説・趣味の書・専門書・実用書）
　点字データの利用法（点字図書・音声・ピンディスプレイ）
　30分で何ページぐらいお読みになれますか。

１．カギの用いかた
（例１）原文のコーテーションマークを第２カギに換えた。
　　ソレナノニ　イマノ　ヨノナカワ、　カルイ　ストレスニ　スグ　ヘナヘナト
マイリ、　カラダノ　フチョーワ　コレ　スベテ　ストレスノ　セイニ　シ、　ソノ
ストレスヲ　ハイジョ　スル　タメニ、　⠰⠄イヤシ⠠⠆ナル　シンショーバイガ
ブームダトカ。
　　シンリンヨクヲ　シテ　⠰⠄イヤシ⠠⠆、　メイソーヲ　シテ　⠰⠄イヤシ⠠⠆、
ミナミ　タイヘイヨーノ　シマノ、　デンワモ　ナケレバ　テレビモ　ナイ　リゾート
ホテルデ、　ヒガナ　１ニチ　ヤシノ　コカゲテ　ボンヤリト　スゴシテ
⠰⠄イヤス⠠⠆　――　ト　イッタ　アンバイデ、　オテガルノ　⠰⠄イヤシ⠠⠆カラ
ナンジューマンエン　カケテノ　デラックスナ　⠰⠄イヤシ⠠⠆マデ、　オコノミニ
オージテ　トリソロエテ　アルト　イウ　ワケダ。
　　シカシ、　ソンナ　フーニ　タイキン　カケテ　⠰⠄イヤシ⠠⠆テ　トーキョーニ
カエッテ　キタラ、　ドコヤラノ　…

（例２）最初のコーテーションマークを第１カギに換えて、他は省略。
　　ソレナノニ　イマノ　ヨノナカワ、　カルイ　ストレスニ　スグ　ヘナヘナト
マイリ、　カラダノ　フチョーワ　コレ　スベテ　ストレスノ　セイニ　シ、　ソノ
ストレスヲ　ハイジョ　スル　タメニ、　⠤イヤシ⠤ナル　シンショーバイガ
ブームダトカ。
　　シンリンヨクヲ　シテ　イヤシ、　メイソーヲ　シテ　イヤシ、　ミナミ
タイヘイヨーノ　シマノ、　デンワモ　ナケレバ　テレビモ　ナイ　リゾート
ホテルデ、　ヒガナ　１ニチ　ヤシノ　コカゲテ　ボンヤリト　スゴシテ　イヤス
――　ト　イッタ　アンバイデ、　オテガルノ　イヤシカラ　ナンジューマンエン
カケテノ　デラックスナ　イヤシマデ、　オコノミニ　オージテ　トリソロエテ
アルト　イウ　ワケダ。
　　シカシ、　ソンナ　フーニ　タイキン　カケテ　イヤシテ　トーキョーニ
カエッテ　キタラ、　ドコヤラノ　…

（例３）コーテーションマークを全部省略。
　　ソレナノニ　イマノ　ヨノナカワ、　カルイ　ストレスニ　スグ　ヘナヘナト
マイリ、　カラダノ　フチョーワ　コレ　スベテ　ストレスノ　セイニ　シ、　ソノ
ストレスヲ　ハイジョ　スル　タメニ、　イヤシナル　シンショーバイガ
ブームダトカ。
　　シンリンヨクヲ　シテ　イヤシ、　メイソーヲ　シテ　イヤシ、　ミナミ
タイヘイヨーノ　シマノ、　デンワモ　ナケレバ　テレビモ　ナイ　リゾート

ホテルデ、　ヒガナ　１ニチ　ヤシノ　コカゲテ　ボンヤリト　スゴシテ　イヤス
――　ト　イッタ　アンバイデ、　オテガルノ　イヤシカラ　ナンジューマンエン
カケテノ　デラックスナ　イヤシマデ、　オコノミニ　オージテ　トリソロエテ
アルト　イウ　ワケダ。
　　シカシ、　ソンナ　フーニ　タイキン　カケテ　イヤシテ　トーキョーニ
カエッテ　キタラ、　ドコヤラノ　…

２．点訳者挿入符の用いかた
（例１）同音の語に点訳者の注を入れてみた。
　　ハルト　イウ　ヨミカタワ、　バンブツガ　「ハル（ハッスル）」カラト　イウ
セツガ　ユーリョクデスガ、　クサキノ　メガ　「ハル⠿⠿フクラム⠿⠿」、
テンコーノ　「ハル⠿⠿ハレル⠿⠿」、　タハタヲ　「ハル⠿⠿タガヤス⠿⠿」ナドノ
セツモ　アリマス。
　　ナツワ、　「アツ」ノ　テンカト　イワレマスガ、　「ナル⠿⠿ナル⠿⠿」
「ネツ」カラト　スル　セツモ　ユーリョクデス。
　　アキワ、　「アカリ（イネガ　セイジュク　スル）」カラト　スル　セツガ
イッパンテキデスガ、　アキゾラガ　「アキラカ（セイメイ）」デ　アル、
シューカクガ　「アキミツル⠿⠿ジューブンニ　ミチル⠿⠿」カラ、　マタ、　クサキノ
ハガ　「アカク」　ナルカラトノ　セツモ　アリマス。
　　フユワ、　「ヒユ⠿⠿ヒエル⠿⠿」カラト　イワレマスガ、　１セツニワ、
サムサガ　イリョクヲ　「フルウ⠿⠿フルエル⠿⠿」、　サムサニ　「フルウ」、　マタ
ドーブツノ　シュッサンノ　ジキデ　アル　「フユ⠿⠿フエル⠿⠿」ノ　イミカラトモ
イワレマス。

（例２）点訳者挿入符の使用を少なくした。
　　ハルト　イウ　ヨミカタワ、　バンブツガ　「ハル（ハッスル）」カラト　イウ
セツガ　ユーリョクデスガ、　クサキノ　メガ　「ハル」、　テンコーノ　「ハル」、
タハタヲ　「ハル⠿⠿タガヤス⠿⠿」ナドノ　セツモ　アリマス。
　　ナツワ、　「アツ」ノ　テンカト　イワレマスガ、　「ナル⠿⠿ウマレル⠿⠿」
「ネツ」カラト　スル　セツモ　ユーリョクデス。
　　アキワ、　「アカリ（イネガ　セイジュク　スル）」カラト　スル　セツガ
イッパンテキデスガ、　アキゾラガ　「アキラカ（セイメイ）」デ　アル、
シューカクガ　「アキミツル⠿⠿ジューブンニ　ミチル⠿⠿」カラ、　マタ、　クサキノ
ハガ　「アカク」　ナルカラトノ　セツモ　アリマス。
　　フユワ、　「ヒユ⠿⠿ヒエル⠿⠿」カラト　イワレマスガ、　１セツニワ、
サムサガ　イリョクヲ　「フルウ」、　サムサニ　「フルウ」、　マタ　ドーブツノ
シュッサンノ　ジキデ　アル　「フユ」ノ　イミカラトモ　イワレマス。

（例３）原文通りで点訳者の注を一切入れない。
　　ハルト　イウ　ヨミカタワ、　バンブツガ　「ハル（ハッスル）」カラト　イウ
セツガ　ユーリョクデスガ、　クサキノ　メガ　「ハル」、　テンコーノ　「ハル」、
タハタヲ　「ハル」ナドノ　セツモ　アリマス。
　　ナツワ、　「アツ」ノ　テンカト　イワレマスガ、　「ナル」　「ネツ」カラト
スル　セツモ　ユーリョクデス。
　　アキワ、　「アカリ（イネガ　セイジュク　スル）」カラト　スル　セツガ

イッパンテキデスガ、　アキゾラガ　「アキラカ（セイメイ）」デ　アル、
シューカクガ　「アキミツル」カラ、　マタ、　クサキノ　ハガ　「アカク」
ナルカラトノ　セツモ　アリマス。
　フユワ、　「ヒユ」カラト　イワレマスガ、　１セツニワ、　サムサガ
イリョクヲ　「フルウ」、　サムサニ　「フルウ」、　マタ　ドーブツノ
シュッサンノ　ジキデ　アル　「フユ」ノ　イミカラトモ　イワレマス。

３．文中注記符の用いかた
（例１）原文通りに
　ゼンセツデ　ナガメテ　キタ　サマザマナ　アタラシイ　オンガク　ヨーシキヲ
シューヤク　シ、　ゲイジュツテキニモ　ヨリ　ジゲンノ　タカイ、　フヘンセイヲ
ソナエタ　セカイト　シテ　ハナ　ヒラカセタノガ、　ウィーンヲ　チューシンニ
カツヤク　シタ　ハイドン⠰⠼⠁⠆、　モーツァルト⠰⠼⠃⠆、
ベートーヴェン⠰⠼⠉⠆ノ　３ニンノ　テンサイテキ　サッキョクカタチデ　アッタ。
カレラ　３ニンワ、　ネンレイテキニワ　ソーゴニ　カナリノ　ヘダタリガ　アルガ、
ハイドント　モーツァルトノヨーニ　タガイニ　フカク　エイキョー　シアッタリ、
アルイワ　ハイドント　ベートーヴェンノヨーニ　セダイテキ　タイリツヲ
ミセナガラモ、　ノチニ　ウィーン　コテンハト　…
⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒
　⠰⠼⠁⠆　ヨーゼフ・　ハイドン（１７３２～１８０９）
　⠰⠼⠃⠆　ヴォルフガング・　アマデウス・　モーツァルト（１７５６～９１）
　⠰⠼⠉⠆　ルートヴィヒ・　ヴァン・　ベートーヴェン（１７７０～１８２７）

（例２）該当する語に続けてカッコで入れる。
　ゼンセツデ　ナガメテ　キタ　サマザマナ　アタラシイ　オンガク　ヨーシキヲ
シューヤク　シ、　ゲイジュツテキニモ　ヨリ　ジゲンノ　タカイ、　フヘンセイヲ
ソナエタ　セカイト　シテ　ハナ　ヒラカセタノガ、　ウィーンヲ　チューシンニ
カツヤク　シタ　ハイドン⠶ヨーゼフ・　ハイドン◇◇１７３２～１８０９⠶、
モーツァルト⠶ヴォルフガング・　アマデウス・　モーツァルト◇◇
１７５６～９１⠶、　ベートーヴェン⠶ルートヴィヒ・　ヴァン・
ベートーヴェン◇◇１７７０～１８２７⠶ノ　３ニンノ　テンサイテキ
サッキョクカタチデ　アッタ。　カレラ　３ニンワ、　ネンレイテキニワ　ソーゴニ
カナリノ　ヘダタリガ　アルガ、　ハイドント　モーツァルトノヨーニ　タガイニ
フカク　エイキョー　シアッタリ、　アルイワ　ハイドント　ベートーヴェンノヨーニ
セダイテキ　タイリツヲ　ミセナガラモ、　ノチニ　ウィーン　コテンハト　…

４．表の扱い
（例１）
◇◇◇◇⠖⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠲◇◇◇◇
　　ノーカスーノ　スイイ
　⠶⠶スージワ　ネンジ、　コスー、　ダイ１シュ　Ａ，
ダイ２シュ　Ａ，　Ｂ　ノ　ジュン⠶⠶

　１９６０ネン、　６０６マンコ、　３３．６ｐ、

３２．１ｐ、　３４．３ｐ
　　１９７０ネン、　５４０マンコ、　３３．６ｐ、
５０．８ｐ、　１５．６ｐ
　　１９８０ネン、　４６６マンコ、　２１．５ｐ、
６５．１ｐ、　１３．４ｐ
　　１９９３ネン、　３６９マンコ、　１１．６ｐ、
７６．３ｐ、　１２．１ｐ
◇◇◇◇⠓⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠚◇◇◇◇

（例２）
◇◇◇◇⠖⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠲◇◇◇◇
　　　　ノーカスーノ　スイイ
　　⠶⠶ダイ１シュ　Ａ　ワ　１Ａ，　ダイ２シュ
Ａ　ワ　２Ａ　ト　リャク⠶⠶

　　１９６０ネン⠠⠤
　　コスー　⠒⠒　６０６マンコ
　　１Ａ　⠒⠒　３３．６ｐ
　　２Ａ　⠒⠒　３２．１ｐ
　　Ｂ　⠒⠒　３４．３ｐ
　　１９７０ネン⠠⠤
　　コスー　⠒⠒　５４０マンコ
　　１Ａ　⠒⠒　３３．６ｐ
　　２Ａ　⠒⠒　５０．８ｐ
　　Ｂ　⠒⠒　１５．６ｐ
　　１９８０ネン⠠⠤
　　コスー　⠒⠒　４６６マンコ
　　１Ａ　⠒⠒　２１．５ｐ
　　２Ａ　⠒⠒　６５．１ｐ
　　Ｂ　⠒⠒　１３．４ｐ
　　１９９３ネン⠠⠤
　　コスー　⠒⠒　３６９マンコ
　　１Ａ　⠒⠒　１１．６ｐ
　　２Ａ　⠒⠒　７６．３ｐ
　　Ｂ　⠒⠒　１２．１ｐ
◇◇◇◇⠓⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠚◇◇◇◇

（例３）
◇◇◇◇⠖⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠲◇◇◇◇
　　　　ノーカスーノ　スイイ
　　⠶⠶１Ａ　ワ　ダイ１シュ　Ａ、　２Ａ　ワ
ダイ２シュ　Ａ　ノ　リャクデ　Ｂ　ト　トモニ
タンイワ　パーセント、　コスーノ　タンイワ　マンコ⠶⠶

ネンジ	１Ａ	２Ａ	Ｂ	コスー
１９６０	３３．６	３２．１	３４．３	６０６

１９７０　３３．６　５０．８　１５．６　５４０
１９８０　２１．５　６５．１　１３．４　４６６
１９９３　１１．６　７６．３　１２．１　３６９
◇◇◇◇⠓⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠚◇◇◇◇

アンケート結果

当館利用者で点字図書をよく利用される方の中から、読者サービス係と相談のうえ４１名の方にアンケートを送付しました。うち１９名の方々から回答を頂きました。

男性１０名（社会人 ８、その他 ２） 女性９名（社会人 ８、その他 １）
点字データの利用法 ： 音声利用者 ２名 ピンディスプレイ ０名。
３０分で読めるページ数：平均 ２５ページ（最も速い方 50～60ページ、遅い方 ３～４ページ）

各例題の集計

１．カギの用いかた
（例１）５名（男１・女４） 原文の“ ”をすべて第２カギに換えた
（例２）８名（男５・女３） 最初の“ ”を第１カギに換え、他は省略
（例３）６名（男３・女３） すべての“ ”を省略

Ｂさん： 例１でいいと思いますが、カギをすべて第１カギに換えるとなお読みやすいと思います。
Ｃさん： 例１。ちょっと読みづらいが、意味が解かるのでこの方が良いと思う。
Ｄさん： 例１。コーテーションマークが（常に）あると読んでいて鬱陶しいと感じることもあるが、やはり原文通りきちんとあったほうがその文の趣旨がしっかり読み手に伝わると思う。
Ｅさん： 例２。最初のコーテーションマークだけでなく全部のコーテーションマークを第一カギに換えたほうが読みやすい。
Ｇさん： 読みやすいことをいえば例２が良い。
Ｈさん： 例２がよく慣れているがどれでもよい。できれば例２。
Ｉさん： 読みやすいのは例２。ただし最初のコーテーションマークを第２カギにし、残り（後ろの分）を第一カギで括ってもらえば読みやすいと思います。
Ｊさん： 例文の１の“いやし”の部分の強調は分かるが読んでいてくどく感じる。２番目の例の書き方のほうが私自身の好みである。
Ｌさん： 同じ言葉が繰り返し出てくる時は最初の一個所だけカギがつけてあるほうが読みやすく、何度もつけてあるとかえって読みづらく感じるのです。
Ｍさん： 例３。中途失明者にとっては読みやすい。
Ｑさん： 例３。全部省略する。あまりごてごて付くと引っかかって読み難いから。
Ｒさん： コーテーションやカギなどはその文章において言葉がどれほど重要かによると思います。常に読む側にポイントを置いて欲しいと思うならば例１であるし、あまり意味がなければ例３であると思います。ただ、例２は付けたり付けなかったりは読み難いかも知れませんね。

２．点訳者挿入符の用いかた
（例１）９名（男５・女４）　同音の語にすべて点訳者注を入れた
（例２）４名（男１・女３）　点訳者の注を少なくした
（例３）５名（男３・女２）　点訳者の注を一切入れない

Ａさん：例１を。ただし、文章によってはくどくなりすぎる。また、読み進む文の流れとしてリズムを壊す。しかし、同音異語にたいしては解りやすくてありがたい。

Ｃさん：例１。ただし、専門書や紛らわしい場合はこれでよいですが、小説やエッセイなどでは一部に注釈をつける程度で良いと思います。

Ｇさん：短い注ならば良いと思う。僕らは言文一致で育ってきた。余計なものがあれば初めは読みづらいと思いましたが今では慣れてきました。

Ｈさん：例２がいいですね。時には解らなくなることもあるので難しいと思います。例３はちょっと困るように思います。

Ｉさん：例１が読みやすい。特に漢字の説明がある場合のほうが文章の「意味」が読者に解りやすい。理解も得られると思います。

Ｊさん：例文１の注釈付きは読み手は丁寧な説明でいいことだと思うが、書くほうはかなりきついんじゃないかと思う。例題２の書き方（挿入符を少なくしたもの）が読み手も「こんな意味か」と考え読むことができていいと思う。

Ｌさん：同音でも意味が異なる場合はやはり点訳者の方の説明があれば最高です。特に古文などは説明がなければ読めませんのでね。

Ｍさん：例１。漢字の意味を正確に掴むことができる。

Ｎさん：例３。文章の中に注釈を入れると読み難いのでまとめて最後に注釈を入れれば解りやすい。

Ｒさん：このごろ視覚障害者はいろいろと漢字と接する機会が多くなってきているので、やはり漢字の説明は入れてもらったほうがよく解るのではないでしょうか？

３．文中注記符の用いかた
（例１）６名（男４・女２）　原文通りに
（例２）１１名（男４・女７）　該当する語に続けて入れる

Ａさん：例１を文章の節、または項の最後に表わされているほうが読みやすい。

Ｂさん：例２が読みやすく頭に入りやすい。

Ｃさん：例２。ただし、あまりにも長いものなら、後に回したほうが良いが、あまりにも後だといちいちページを繰らないといけない。専門書は一工夫が必要。

Ｄさん：例２。注の説明が何行にも亘ってしまう場合は原文通りにしたほうが良いと思うが、1、２行程度なら例２のようにしたほうが読みながらすぐに解るので良いと思う。

Ｈさん：例２がいいです。後で探すのは面倒です。手をあっちこっちにやるのは億劫。

Ｉさん：例２が読みやすく良いと思う。現在では例１と例２が見られるができれば例２に統一して欲しいと願う一人です。

Ｊさん：文中注記符は例１の原文通りでいいと思う。例２だと内容を忘れそうになるから。

Ｌさん：やはり文中に説明してほしいです。文章が長いものだと探すのにも苦労するし、意味が解らず読むのもおかしな感じが後に残ってしまうのです。

Ｑさん：例２。すぐ入れるほうがよい。知っていることがある時は邪魔だと思う時もあるが、カッコですぐ入れてくれるほうが親切だ。

Ｒさん：カッコ内が短ければ、たとえば一行ぐらいの場合、そのまま入れてほしい。そのほうが読みやすいというよりその言葉に対して注意を引くと思います。

４．表の扱い
（例１）５名（男２・女３）
（例２）６名（男４・女２）
（例３）４名（男２・女２）

Ｂさん：　例２が見やすい。
Ｃさん：　例１。表は、いつも苦労させられる。記号などを、省略すると途中で分かり難くなる。一工夫がいると思う。
Ｇさん：　表の書き方についてはマニュアル通りで良いのではないか。表の最初に注を入れてくれれば理解できるのではないかと思います。東京点字やライトハウスのあの書き方で十分解るのではないかと思います。受け手として製作にタッチしたことはないので分かりません。要は余計なものがなくて読みやすければ良いのではないでしょうか。
Ｈさん：　例３が簡略で解りやすくてよい。だがこれも表と文との関係や内容によるのでその時々によると思う。
Ｉさん：　表の表記は例１で書かれた物件が多いと思いますが、確かに例２のほうが解りやすくて良いと思います。「特に」私は小説（推理小説）を多く読むので良く分かりません。
Ｊさん：　例３が農家の戸数や年度など解りやすい。
Ｌさん：　「年次」と「戸数」の意味は解りますが「第１種」とか「第２種」というのは何のパーセントを表わしているのでしょうか。理解できなかったのでパスさせていただきます。
Ｑさん：　例１、例２、いずれも違和感なし。
Ｒさん：　例１の形が読みやすいと思います。

５．その他、お寄せいただいたご意見・ご要望など
Ｂさん：　点訳してくださるボランティアの皆さん、ありがとうございます。おかげさまでたくさんの情報を得ることができます。ただ、点訳をされる方によって分かち書きがバラバラなのでできれば統一してもらいたいです。それと、このごろ点字の打ち間違いが目立つように思われます。点字にプリントアウトする前に必ず第三者によるチェックが必要だと思います。点字も墨字同様大切にしていきたい文字です。よろしくお願いいたします。
Ｃさん：　専門書と小説やエッセイの点訳方法を、変えるのは当たり前だが、意味や内容をよく検討したうえで点訳をお願いしたい。
Ｆさん：　現在よく愛読させていただいてますが、私は表記がどうのというよりも新しい本をいち早く点訳してくれることを切に願います。
Ｈさん：　私も点字教室の講師をもう５年もしています。点訳の皆様方に深く感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。今年は利用者友の会を35名ほどで結成して表彰の推薦や交流などに取り組んでおります。どうか皆様のご苦労に報いて上げて欲しいと思います。
　なお、私個人としては多少間違っていようが情報が早いことが先決だと思っています。そういうもののために図書館の検査に通らない人たちの物もじゃんじゃん貸し出して欲しいものです。株式市場の2部銘柄のような点訳書も大歓迎。 今年36年勤めた教師を退職したので後はおもいくそ本を読んでやろうと楽しみにしています。よろしくお願いいたします。
Ｋさん：　この度のアンケートを高く評価したいと思います。それはこの度の回答を求め「少しでも正確で読みやすい点訳書になるよう」という目的が読者にとってありがたいからです。
　その意味でもう一点お願いしたいことは情文独特の「する」「します」の書き方 — その前はアケルという書き方は特異的で読み難いことです。点訳者のうちでも有能な方は多数居られることと思います。それらの方を画一的に規制するのではなく「日本点字表記法」通りに書ける力のある方はこれに合わせていただければと希望します。

Ｌさん： 最近は片面書きになってきましたがやはり時代でしょうか。私は両面書きのほうが好きです。点訳される皆様方にはどちらのほうが点訳しやすいのでしょうか。皆様方のご健闘をお祈り申し上げてます。

Ｐさん： 読みたい本はよく「予約待ち」になるのでちょっと残念です。でもテープ図書よりやはり点字図書が読み甲斐があり自分の心にしっかり入り込み読んだって満足感を持てますのでこれからも点字図書を利用したいと思います。

　私たち視力障害者のため日夜努力していただきまして感謝いたします。これからもどんどん読んで読書人生を楽しみたいと思っています。

Ｑさん： 本と言うものはどんなジャンルでもスムーズに読まなければ内容を読み取り難いものだ。新しい方式になって、「、」の点が入ったりで初めは困ったものだ。今も書いたようにいかにスムーズに読むかで内容の読み取りから小説やエッセイの持つ雰囲気・印象まで変わってくるものだ。私は昔派なのか知れないがあまりややこしい点がいっぱい付いていたりすると嫌になる。なるべく難しい点などは排除してすっきりとした本・文章を読みたいものである。

最後に、触読速度（ページ数）と回答を併せて一覧にします。

	Ａ 男	Ｂ 女	Ｃ 女	Ｄ 女	Ｅ 女	Ｆ 男	Ｇ 男	Ｈ 男	Ｉ 男
速度 ｐ	12～3	20～	30	15～20	50	10～13	50～60	30	４～５
１．	１	１	１	１	２	２	２	２	２
２．	１	２	１	１	２	３	１	２	１
３．	１	２	２	２	１	２		２	２
４．	３	２	１	２	３			３	２

	J 女	K 男	L 女	M 男	N 女	O 男	P 女	Q 男	R 女
速度 ｐ		15	16	３～４	40？	40	30	30～	22～23
１．	２	２	２	３	３	３	３	３	1 or 3
２．	２	１	１	１	３	３	３	３	１
３．	１	１	２	１	２	１	２	２	２
４．	３	１		２	１	２		1 or 2	１

（注）例題に対する回答のない方が１名。

ボランティア友の会から勉強会に対して補助が！

　７月に開かれました友の会世話人会にて、点訳・音訳・対面リーディング・館内作業など、各部で行われる勉強会に対して補助金の支給が決められました。これからは講師の方々に交通費程度はお渡しすることができるようになりました。

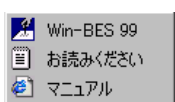
お知らせ 勉強会

“カギやカッコ類の処理”

１０月１５日（金）
１３：３０から
９Ｆホール

Q & A

Win-BESを利用していますが、マニュアルがありません。何か解説書か説明書があるのでしょうか？

Win-BESのようなソフトはフリーウエア・ソフトと呼びどなたでも無料で利用できます。費用を徴収することができませんので、この種のソフトには印刷された取扱説明書が附属していないのが通常です。

しかし、紙に書かれたものはありませんが、パソコンの中から解説を見ることができます。１番簡単な方法は、BESを立ち上げた後、ファンクションキーの「Ｆ１」を押します。するとヘルプ画面があらわれ、キーの説明が見られます。これは簡潔に書かれたファンクションキーの取り扱いだけで、より詳しい説明が欲しい方には力不足は否めません。

そこで次の方法でより詳しい解説が見ることができます。

(1) パソコンの画面、左下にある ボタンをクリックする。

(2) すると右のような窓がオープンします。・・・・・・・・・・・・・・・・・・→

(3) この窓の中にある をクリックします。

(4) Win-BES 99 / お読みください / マニュアル

Win-BESに「矢印」あわせると、左のような窓が開きます。
この中の「マニュアル」をクリックすると説明を見ることができます。
また、プリンターをお持ちの方は、印刷することもできます。

読み方調べ

登録件数　７０万件突破

「読み方調べ辞典」の登録件数が、７０万件を越えました。代表的な辞典である「広辞苑」や「大辞林」の登録件数が約２３万件ですので、ずいぶん大きく育ったといえます。登録件数が増える毎にヒット率があがり、使いやすいものとなりました。今後ともご利用いただき、ご意見、感想などいただければ幸いです。

中平野町の読みを調べたのですが、「なかひらのちよう」となっていました。どう考えても「ちょう」だと思うのですが？

ご指摘の通り「なかひらのちょう」が正しいと思います。
辞書により表示方法が違いますが、「読み方調べ辞書」では読みを統一をせず、辞書に載っていたとおりの表現で記載しています。従って

宝塚　　たからづか　→　たからずか
鼻血　　はなぢ　　　→　はなじ
○×町　○×ちょう　→　○×ちよう

など、通常の表現と違ったものが見かけられます。採用した辞書名を表示していますので、疑問な点がありましたら原本の凡例などを参考にして下さい。（辞書は７階に配架しています）

お願い

1999年９月３０日、山口県下関駅でおこった無差別殺人事件の被疑者、上部康明（ウワベヤスアキ）など、新聞に掲載されたルビ付きのデータもきめ細かく収集して、辞書への追加をしております。
既製の辞書からだけではデータとして不足がちで、それを埋めるために新聞、雑誌などを活用しております。しかし、それらは一から入力し、校正してからでないと資料として追加できません。
最近、インターネットを利用されている方が多くなりましたが、インターネットで配信されているデータのうち、辞書として利用できる資料も多く見られるようになりました。それらからも積極的にダウンしデータとして追加しているのですが、なにぶん広い大海の中で捜査しているようなもので、多くの有用なデータが埋もれたままになっているかと思われます。皆さまで気が付かれたデータでこれはと思われるものがありましたら、URLを木村までお知らせ下さい。辞書として追加します。

下取り
SALE